

平成26（2014）年度

第2回吹田市立博物館協議会

議 事 録（要旨）

日 時 平成26（2014）年 10月24日（金） 午後1時30分～午後4時00分
場 所 吹田市立博物館 二階 講座室
出 席 一瀬・田中（敏雄）・辻本・外川・黒谷・田中（万尋）・岩崎・佐久間・広瀬委員
欠 席 村田・内田・岸本・伊藤委員
傍聴者 なし

【1 開 会】 藤井副館長（出席状況の確認）

出席委員数は職務を委嘱している13名の過半数を超えています。

【2 挨拶】 中牧館長 挨拶

【3 新委員の紹介】 藤井副館長

*学識経験者 上谷委員にかわりまして、佐久間委員（自然史）が着任されました。

*職員異動【職員配置図（P2）参照】

文化財保護課課長 桑田が退職。文化財保護担当参事の増田が課長に着任。

学芸員 市村 茉梨（美術工芸）が着任（10月1日）。

【4 案件（1）事業報告（平成26年度前半～）】

事務局より3～15ページ平成26年度前半の事業について報告（資料参照）。

《質疑応答》

（議長）P8の吹奏楽コンサートに302人参加されていますが、生徒さんの様子は如何でしょうか。

（委員）佐井寺中学校では、吹奏楽の顧問、地域、保護者も力を入れています。今年度は、コンサートも力を入れ、地域にも出向いていく活動も推進しています。出来る範囲でご協力をさせていただきます。

（議長）参加者の内訳は、どうでしょう。

（事務局）部員約70名。博物館正面玄関階段前で実施しました。保護者なども含め総計302名です。

（委員）毎回総観覧者数と展示観覧者数の差が気になります。「さわる」展では、展示観覧者数857人、総入館者数2,269人。展示観覧者数が半分以下です。本来、展示あつてのイベントのはずで、関連イベントに来た人が展示を観覧していない。野外のイベントでは、展示室に誘導するのは難しいと思いますが、関連イベントで来た人を展示室に惹きつける、或いは展示室を使ったイベントを企画する工夫をお聞かせください。

(事務局) イベントを10年来増やして入館者数が増えています。展示については、テーマが地元密着型であることが多く、展示室まで足を運んでいただけないことがあります。しかし、以前に比べ参加型の要素が出てきています。これからの課題だと思います。

(委員) 総観覧者数と入館者数とが結びつかないことと関連しますが、イベントを行った時、博物館にどのような財産が残るのか、考えて欲しいと思います。イベントに多くの人に来て、博物館に触れて頂けることはいいことです。観覧者数に結びつかないのは、底上げが上手くいっていないからです。イベントに来られた人が次のリピーターになるとか、地域のアマチュア・郷土史家・自然研究者として残るとか、数字だけでは評価できない面があることを博物館から主張して頂きたいと思います

(事務局) 博物館に残る財産ということで、博物館のファンを増やすとか博物館の持っている資源を使って、博物館を拠点にした様々な活動に繋げてもらえるような、市民を作っていくことも大きな役割だと思います。イベントがイベントだけになっている現状は否めません。そのことが数字に表れていると思います。関連するイベントとして内容を充実させる必要はあると思います。

(議長) P9に自然観察会があります。数字的に気になったのですが、キメ細かに観察会の回数を増やしていけばと思うのですが、7月24日146人、8月6日68人で、タイトルが「ダンゴムシ迷路」です。どんな展開だったのでしょうか。

(事務局) 紫金山自然観察会は、定員20名で紫金山を歩き、昆虫や野鳥を観察しました。「ダンゴムシ迷路」は、木枠の迷路に子ども自ら捕まえてきたダンゴムシを入れその習性を利用して、スタートからゴールまで辿り着けるか観察・体験しました。午前・午後の2時間で、24日は、多くの親子が絶え間なく来ました。6日は、落ち着いた感じで体験しました。

【4 案件(2) 事業計画(平成26年度後期～平成27年度前期事業)】

事務局より平成26年度後期～平成27年年度前期事業計画について報告(資料16頁～21頁参照)

(委員) 春の「西村公朝展」についてお伺いします。博物館初代館長が今回生誕百年ということで展覧会をされます。生誕百年をきっかけに常設展示に移設することを提案します。狭い展示場ですが、工夫次第で設けられると思います。

(事務局) 現在作品を常設しているのは、応接室の三点です。将来的には、常設展示していく方向で検討中です。

(委員) 春の「(仮題)生誕100年 西村公朝展」ですが、どういう構成なのかお伺いします。応接室に展示されている作品をもっとPRした方がいいと思います。常設コーナーをお願いします。

(事務局) 構成は、1部は、修理に関する資料・模刻資料を展示します。2部は、創作の十大弟子像、ふれあい観音像の展示といった二部構成で考えています。修復に関しては、修理物件以外にも東京芸術大学を中心に行われた研究・調査に関する紹介。若い頃に行われた修理と過去2回の展覧会であまり触れられなかった点に焦点をあてます。創作に関しても、修理に関する研究・調査、実績がどのように還元されていったのか、紹介できる展示を考えています。

(副館長) 春季特別展について、今説明したような展示構成を考えています。ご意見や良い案がありましたら教えて頂きたいです。常設展示については、中長期計画に関係しますが、西村公朝作品は現在ご遺族がお持ちで、博物館への収蔵をご希望ですが、収蔵庫が満杯で受入れるスペース

がありません。収蔵庫の増築を計画していますが、常設展にするには館に作品が収蔵されないと難しいです。中長期計画は収蔵庫の増築と作品の搬入・管理、それから常設まではいかないかもしれませんが、年一回の定期的公開をまずは特別展示室で実施できたらと考えています。

(委員)【連携事業】の北大阪ミュージアム・ネットワークについて教えてください。

(副館長) 北大阪ミュージアム・ネットワークは、北大阪にある7市3町の公立、民間問わず、博物館、美術館、資料館などミュージアムと称していい施設が、緩やかな連携を図っているネットワークで現在50館加盟しています。当館が会長館を務めていて、平成17年から活動しています。昨年からネットワークの連携強化や北大阪の文化資源を発信する取組みとして、国立民族学博物館を会場にして北大阪ミュージアムメッセを開催しています。またシンポジウムを年に一回実施しています。

(委員) ネットワークがどれくらいの規模なのか。50は多いです。

(副館長) 数は50ですが、一番大きなミュージアムが国立民族学博物館ですが、数名のスタッフしかない所もあります。様々なミュージアムがあることが一番の特徴となっています。

(委員) 大阪府は博物館ネットワークがない、数少ない府です。北大阪ミュージアム・ネットワークのように下から作られたネットワークが重要なわけです。私も自然史系博物館ネットワークをやっていますが、東日本大震災の時のように、行政枠内で相互補助的に何かあった時に動ける枠組みがありません。ネットワークを通じ、顔が通じていることで何かあった時に、コンセンサスをお互いの中で作っておかないとレスキューできない。大阪全体で対話させて頂きたい話題です。緩い連携で続けるのが大切だと思います。博物館を担う学芸員が財産にできるようなネットワークとして、拡大して行って欲しいと期待しています。

(委員) 西村公朝展は仏教芸術に興味がある方は、遠くからでも来たい特別展だと思います。吹田市立博物館の特別展の多くは、開催期間が一か月と少力で、展示が始まり、評判が聞こえてくる頃には終わってしまうことになります。関連イベントも、担当学芸員は、開催日までは手一杯で、PRに行けない状況になってしまいます。組織的に関連イベントやアピールを前倒しでやって欲しいです。「自然と環境」展もそうです。「自然と環境」展に関しては、館にその専門分野の方がいない難しい状況での企画です。これは、平成27年度ではなくて、平成28年度・平成29年度にやりたいことを地域の方と議論をして、28年度は「鳥」の展覧会をするのであれば、それに向けて写真を撮りためる。春に企画をしてからでは資料が集まらない。29年度は「きのこ」であれば、毎年きのこ観察会が柴金山でも行われるので、資料を標本にする取組みを進めていくといいと思います。前倒しの展開をお願いします。

(事務局) 個々の展示期間が短いことについては、特に美術系などの展示は、重文や国宝をお借りする場合、期間が約一か月程度という枠があり、どうしても短めに設定せざるを得ないところがあります。館としては出来るだけ長期と考えていても、文化庁などの許可も降り難いことをご理解頂きたいと思います。夏季展は、単年度ごとの実行委員会形式で、何年も前からというのは難しいですが、ご意見を参考にしていきたいと思います。毎回、準備期間が短くなってしまいます。早期のテーマが、必要になってくると思います。

(事務局) 展覧会ごとに公募して、実行委員会を組織し、終わったら解散していますので、実行委員会の在り方の問題とも関わってきます。課題だと思います。

(議長) 今の話に関連しまして、P18の中期計画案が特展のタイトル以外では、年間行事でリピー

- して、5年間続けますとなっています。27年度から29年度に関連した積み上げ的な展示計画があれば、周知した上で、展示期間が短くてもプレ展示的な要素を前段階に入れると、観覧者が興味関心を持って、本番をご覧頂けるようになると思います。博物館では展示、制作途中評価を必ず入れるようになってきていますので、イベントが出来上がってくると、関連イベントも自然と付いてくると思います。見通しを立てるために中期展示計画を立案してはどうですか、という話をしてきたつもりでしたが、関連性、積み上げがなく、単発の事業年次で切ると、細切れになるのでリピーターが育ちにくい。長期的に見ると博物館は何をやっている所だ、使命は何だと聞かれた時に見えてこない。5年間見ても見えてこないのだから、長期のものをもっと見えてこない感じがします。5年間そのシリーズで上手く市民ニーズに答えながら突き進んで行くので、計画通りには行きませんが、市民ニーズに沿って、見通しの中で動いていくのは重要なことだと思います。そういう意味の計画案を出して頂きたいと思います。観覧者の折れ線グラフを求めていますのでお願いします。観覧者の傾向を掴んだ上で、5年間の計画、市民ニーズを計った根拠を持っていないと、過去の利用者データでは役に立たないと思います。春季特別展で構成が話題に出ていましたが、特別展の主担当が何をやりたいのか計画段階でもっと示し、周りが展示の軸には触れないで、広報とか関連事業とか各々役割分担するフォローがいると思います。イベント的なものを作って、ある程度コンセンサスの意思疎通を持って、周りが支援していくシステムの方がいいと思います。そうすると特にP21の6の関連事業でその場に居合わせる意義も含めて、いいアイデアが出て膨らんでくると思います。
- (委員) 仏教関係の展示でもありますので、吹田市内の仏像などと比較したり、年代別に近い仏像は「こうですよ」とか参考にしたり、現物の展示もいいと思いますが、図面とか説明とかで触れることもいいと思います。それと仏像修理はどの様にするのかを紹介して、市民が簡単に出来るような場を作るとか考えられると思います。
- (議長) 仏像の基本的なガイダンスとか修理の状況とかはイベントなどでもすぐに出来そうな気がするのですが。事務局の説明での関連事業のイメージが項目だけ挙がっていて、実際どの様なものをイメージされているのか分かり難いので、もう一度説明頂けますか。
- (事務局) 講演会については、特に西村公朝の世界観を紹介するために、仏像の修復に携わったお寺様などにお話頂くのと、美術院でどの様に技術を伝えていたのか、美術院修復国宝修理場の所長さんにもお話頂き、現在の修理はどの様に行われているかなど、紹介できたらと考えています。西村公朝先生の作品や仏教に関する考えを理解頂くための講演会なども考えています。その一方で、西村公朝先生が携わった修理事業は、現在の修理にどの様に繋がっているのかを、提示できる展示にしたいと考えています。展示資料についてもどの様に修理をされたのか、図面を一つ一つ展示し解説を加えながら見て頂く方々が、仏像修理とはどういったものなのか、分かり易く説明できる展示、関連事業を考えております。
- (議長) ワークショップは、どういう内容を考えていますか。
- (事務局) 子どもから大人の方まで楽しめるようなワークショップを企画しています。創作に焦点を当て、公朝先生の息子さん公泉先生に制作のワークショップや仏像・仏の世界について体で感じ取って頂けるようなものを2、3点考えています。
- (委員) 見学会は、どこに行かれるのですか。美術院に行かれるのですか。
- (事務局) 三十三間堂の見学と愛宕念仏寺の見学を考えています。

- (委員) 千手観音立像は西村公朝先生が600体ぐらい修理されていますが、特に千手観音立像の修理報告や修理の図面と作品との繋がり、千手観音立像の意味との関連づけはどうでしょう。
- (事務局) 千手観音立像の修理が、西村公朝先生の美術院での最初の大きな修理になっています。ある意味先生の生涯における仏像修理のきっかけとなった仏像となっています。今回先生が実際に修理されたものをお借りします。先生が独自で行われた調査とか、美術院に残っている修理資料、エピソードなども交えて、一つの展示ブースとして紹介できたらと考えています。
- (委員) 生誕100年という記念の展示です。特別展示室は狭いので、総花的な部分が多い感じがします。常設展ができれば、細かく深く展示できると思いますが、西村公朝先生は人間性、技術者、宗教者とか様々な面をお持ちなので展示会場で全体像を浮かばせるという学芸員さんの努力に期待しています。模刻とか創作作品も展示されるので楽しみです。

【4 案件（3）事業計画（平成25年度博物館事業評価と中長期計画）】

事務局より平成26年度後期～平成27年年度前期事業計画について報告（資料16頁～21頁参照）

- (議長) 平成25年度博物館事業評価と中長期計画がありますが、評価報告書の本書がよくまとまっていて、褒めるところは褒めて、それなりに問題点が指摘されている内容となっています。目を通されているという前提で良い所はそのまま一読して頂き、問題視・課題視・不安視されている文言が各々出ています。それについて、事務局がどう考えているか説明頂き、その説明について委員から意見をさせて頂きたいと思います。この評価報告書は、レベルの高いあまり手直しする必要もない完成度が高いものだと思います。これに基づいて、中・長期を睨んで課題・問題の部分を見据えて、事務局の方でコメントを頂けると評価の方は点数ぐらいだけにしておいて、今後を見据えた話の方がいいと思います。
- (副館長) P22からの事業評価報告書ですが、各委員から分担頂いたものを原則事務局で原文に近い状態で、改変せずに整えたものです。同じ様な内容の場合は、重複を避けてまとめています。各項目の総合評価点は●になっています。昨年は、各々5点満点で評価していただき、平均点を報告書に記入させて頂きました。昨年度と同様、採点表をお配りし、報告書を整えて最終的には一瀬議長に、内容をご一任ということで進めさせて頂けたらと考えております。それについてご意見があればお願いいたします。
- (議長) 初めての委員の方もおられますので、質問等、評価報告書について、疑問点などがありましたらご発言をお願いします。25年度の評価ということで点数をこの後、入れて頂きたいと思います。私は検討中と書いてあるのは0点を入れています。検討というのは何もしていないと評価しています。具体的な検討内容を書いていけば大抵は点数を入れているのですが、私なりの評価です。なければ中長期を睨んだ課題について答弁をお願いします。

【5 案件（3）課題討論】

○平成25年度博物館事業評価について

- (副館長) 評価報告書P22〈展示〉の常設展示については、リニューアル計画が未検討になっています。中期計画では大規模な全面改装に近いものをリニューアルと位置付けています。そうでない個々の展示替えは、展示更新とか展示替えという表現を使っています。リニューアル計画については、予算面の問題もあり、不確定なところもありますが、中期計画でどの様な展示が考えられるのかを検討してまいります。実際の実施は、その検討に目途を付けながらその時点で

リニューアル法を考えてまいります。

企画展は、吹田の庄屋のシリーズ化として、一昨年の旧中西家、昨年の気比家、今年度は旧西尾家展を開催しています。夏季展示は、準備段階の工夫が評価できると書かれていますが、先ほど委員の方から色々ご提案を頂いた辺りが、課題だと考えています。単年度ですので、展示の担い手が毎年替わってきます。そこで学芸員が内容を決定するところまで主導していいのか、市民の方との兼ね合いでどこまで踏み込んでいけるのか課題です。

さわって楽しむ博物館展では内部でも色々問題が出て、継続実施するかどうか議論をしています。あくまでも手段であって、目的ではないという意見もあり、どうするかを考えております。展示を理解する手段としては、有効であることは認めるところです。それを各々展示に如何に展開させるか、更に言えば常設展で分かり易い展示に替えていく手段として、利用していたらと考えています。これも課題かと言えます。また、委員からご指摘がありましたように、展示をご覧いただく観覧者を増やす方向へと2年ほど前から見直し始めています。展示品のテーマ、或いはその物の魅力によって集客は大きく変わってまいります、広報を上手く活かしていきたいと思っております。

〈特別企画〉については、上手くいっている取組みの一つと思っています。今後、時代的に合わなくなる展示品も出てくるかもしれませんが、学習指導要領の改訂を睨みながら改定が必要な場合は対応していこうと考えています。ボランティアの方には、ミュージアム・エデュケーター的な機能をより一層マスターしていただく取組みを考えています。

〈市民参画〉については、年齢的な偏りがあり、一層の対応が欲しいということですが、ボランティアについては、特別企画・喫茶コーナーなど、様々な取組みをして頂く、種類を増やしていきたいと考えています。また市民実行委員として期限を切って、夏季展などの展示に特化した市民の取組みがあります。これとボランティアの区別・違いや或いは同じ様な考え方がどう取れるか、組織の統一を図るべきかどうか、中期計画のところでは考えなければいけません。それに伴って、各ボランティアの方々への研修も行っていく必要があると思っております。

夏季展に関わって、紫金山公園の活用も書かれていますが、紫金山公園の中にある博物館の立地条件、紫金山公園と一体化した博物館の利用。その部分が弱かったところがありますので、一層取組んでいき、展示にも反映していくことを盛り込んでいます。

〈地域学習の拠点〉につきましては、子ども・若者層へは高い評価を頂いたり、まだ努力が足りないという評価もあります。これについては、夏季展・特別企画でより展示に関連度を高めながら、テーマ、展示を理解するために必要な関連イベントという考え方で、増加に努めていきたいと思っております。

〈出前講座〉については、市民の中へもっと入っていく努力を継続すべきであるというご意見ですが、当館の主催事業ではなく、依頼を受けて実施するところですので、依頼があればどんどん出て行って、博物館のPRにも努めたいと考えています。

〈レファレンス業務〉については、Eメールとファックスの限定対応が良いとありますが、現状の対応で気軽に活用していただく方が良いと思っています。他は概ね良いというご意見が多いです。

〈北大阪ミュージアム・ネットワーク〉については、一過性のイベントではなく、他館からノウハウを色々得て、もっと発展を期待したいということですが、その通りで、補助金を得て

いる文化庁からも一過性のイベントにするのではなく、継続的な取組みを言われていますので、頑張ってお取組みたいと思います。淀川水系をテーマにということは、同じネットワークの今城塚古代歴史館の館長さんから同様のご提案を頂いています。北大阪の連携としてはいいテーマであると考えています。

〈歴史街道〉の取組みは、良い取組みだと評価頂いています。

〈アンケート調査〉については、満足度に止まらず、少数の意見も含めた分析を期待したいということです。現在は、簡単な分析に止まっていますので、アンケートの目的は、事業の改善に利用することが大前提ですので、それを含めてやっていきたいと思っています。

〈ニュータウン〉については、当博物館でも重要な調査ポイントであり、収集対象にもなっています。十分に博物館の機能を利用して、どんどん情報発信していければと思っています。

〈情報発信〉については、ホームページは概ね良いということですが、マスコミ関係にもっとPRして頂きたいということです。頑張ってお取組んでいます、取り上げていただけないのが現状です。プレスツアーもやってみましたが、効果がある場合とない場合があります。いい対応法があればお知恵を拝借できればと思います。新しいマスメディアの新規参入ということで、ラインやスカイプ、カカオトークを採り入れてはというご意見ですが、中期計画でもソーシャルメディアを利用した広報を検討することを明示しています。

データベースは、公開が出来ていない現状があります。一番の問題は費用面です。図書館のデータベースと連携していく方向性を中期計画以降で明示しています。

〈学校教育との連携〉については、みなさん評価して頂いています。小中学校対象の研修会の充実ですが、教員との研究会を通じて、連携を深めていけたらと思っています。吹田高校と高博連携を取組んでいます、連携で基本的に明示している内容は充実していますが、もう少し発展した形の取組みがどれだけできるか、ワークショップ的な授業展開を期待していると御指摘を頂いています、その点は中期計画にも明示しています。

〈資料の収集と保管〉については、デジタル化・データベース化が遅れています。データベース化は問題点が大きいです、デジタル化は、これからの時代、必須のものでやることからやってまいります。

収蔵庫の問題ですが、西村公朝資料を受入れるために、中期計画に増築を謳っています。長期計画では常設展にも繋げたいと謳っています。

〈調査研究〉については、展示関連のものが中心で、他の調査が疎かになっているというご指摘はその通りです。企画展関係以外で、吹田市の重要なものとして、当然採り入れるべきものは、積極的に実施したいと思います。そのために、学芸員で館内の研究会に取組むことも中期で謳っています。

〈施設の整備・維持管理〉については、アクセスの問題があります。JR 岸辺駅が博物館の表玄関であると位置づけ、簡易な臨時的なアクセス表示を改札口の出た所に取り付けています。今後、病院が整備される本格的な整備が進み、終了した時点で恒久的なアクセス表示を設置する予定です。

吹田サービスエリアからのアクセスは法律的な問題があり、簡単に解決出来る問題ではありません。アクセスが出来ることによって博物館への来館者の流れも変わる可能性があります。すぐには難しいですが継続的に取組んでいけたらと思います。

〈社会貢献〉については、様々な情報を日本全体へ発信、博物館実習やJICA研修、インターネット、学会研究会だけに限らず、広く行っていけたらと思います。

(議長) 今の発言と中長期計画をご覧になって、事務局の考え方に質問とか意見がありましたら発言をお願いします。一点だけ質問ですが、P23の特別企画「むかしのくらしと学校」展ですが、非常に地域博物館ならではの、吹田市立博物館の目玉の企画だと思いますが、学習指導要領の関係という話がありましたので、委員の方で何かご意見ををお願いします。

(委員) 3年生は、地域のくらしを知ることや総合学習で「むかしのくらしにふれる」があります。博物館には元教員もおられ、サポート体制を作っています。「あかり」の授業、展示での「さわれる」ことを含めて、小学校の立場から言いますと「さわれる」展示はありがたいというか、「さわれる」展示に当博物館の意義があると思います。先ほど評価の話が出ていましたが、近隣の学校にとっては、紫金山公園の登り窯とセットにして、或いは岸部側の公園には地層がむき出しになっている場所がありますので、理科学習と歴史学習とセットにして3年生だけでなく、6年生や他の学年にとっても大きな存在になっています。

(副館長) 博物館ボランティアや学校のご協力を頂きながら「むかしのくらしと学校」展は、上手く実施できていると思います。以前から他学年・他教科との連携を次の課題・ステップとして考えています。その中の一つに「地層」の話なども出ています。当館から声かけした時に、学校は受けて頂けるかどうか。前向きにご検討して頂けるのであれば、是非進めたいと思います。もう一つ、連携モデル校を設置する考えは、第一次中長期計画から出ていましたが、出来ていないのが現状です。委員の学校が近くですので、連携をさせて頂けたら有難いです。

(委員) 歴史学習で柴金山公園の登り窯を見た後、博物館から多くの歴史学習教材のご提案を頂いたら、活用していけるとと思います。ご提案の中からピックアップして、繋がれるところを探っていけたらと思います。

(委員) 「さわる」展がなくなるかもしれないので発言いたします。中長期計画に「さわる」展は入っていますか。

(副館長) 5年間の展示ラインナップの中には、毎年今のところ入っています。

(委員) この企画を続けていく意義があるのかという意見が、内部的に出るのは理解できなくもないですが、結論として続けて欲しい、続けるべきだと思います。手段か目的かという話がありましたが、さわる展が2006年実験展示として始まった時は、ただ「さわる」ことに対する博物館全体の意識は、今とは随分違っていたと思います。啓発という意味で「さわる」ことを前面に掲げた展覧会、「さわる」ことを目的にした展覧会を企画してきたわけですが、10年近く経って時代も代わり様々な所で、「さわる」展示が行われるようになり、啓発という意味は無くなったわけです。副館長が言われるように今度は「さわる」ことを手段として、どういう展示が出来るかという段階になっていると思います。「さわる」ことを手段とした展覧会であれば、学芸員みんなが順番で担当して欲しいと思います。「さわる」展を2年連続担当するとネタ切れになってしまいます。手段としても何を展示すればいいか行き詰ると思います。ローテーションを組んでいると4年に一回、その時に学芸員がこれまでやってきた自分の展覧会の中で使えるようなもの、今後の展覧会でこれはいけると思っているものを出す場として活用していきましょう。「さわる」展は究極的に言えば館長も以前言われていましたが、常設の場に活かされ、最終的には特別に企画をしなくても、常設に行けば常に触れるものがあるというのは理想ですが、

プロセスとしては数年置きに各学芸員が担当して、その成果でこれは「さわる」展に出して評判が良く、有効だというものを常設に活かすシステムにしていかないと、何もない所で常設に「さわる」展示を活かそうといっても難しいです。そういう意味でも、一年に一回「さわる」展という場で学芸員が知恵を絞ると期待して、是非継続して欲しいという要望です。

(議長) 私は、常設と言わずに、特別展示でも必ず「さわれる」展示があるといいと思います。

(副館長) タイトルの問題とか言われていることは、私と変わらないように思います。「さわる」展というのではなく、担当者が今までの展覧会を利用してということであれば、そのテーマは「さわる」ではなくて、展示品の側にあるのではないかと思います。積極的にそういう手法を取り入れてやっていくことは大切なことだと思います。触ることを放棄するというわけでは勿論ありません。理解を深めるために非常に大事で、有効であるということは誰もが認めることです。ただ、テーマによっては、美術とか紙製を扱うところは難しいところがあります。その辺をどうするか次の問題になると思います。

(議長) しばらく継続するということになると思います。

(委員) 副館長の考え方とはそんなに差はないと思います。今年、学芸員がされたやり方はモデルにはなると思います。狭いコーナーで全部「さわる」でオリジナリティを出すのは、分野によっては難しい面もあると思います。こちらの場合は、仏像のレプリカをはじめマンネリだからつまらないという声もある一方で、仏像に触る機会があるので、毎年固定したものを出すそれはそれでいいと思います。それプラス各学芸員が知恵を絞って全部オリジナリティに毎年変えてということではなくて、「さわる」ところは、10年積み重ねがあるわけですから、タイトルはお任せしますが、「・・・とかにさわる」「・・・にさわる」ということで、手段であり目的であり、ということには拘りませんが、「さわる」ことには、当面は拘って頂きたいと思います。

(副館長) ここまで取組んできましたので、これからも継続していきたいと思います。

(議長) ボランティアさんに関して、年齢的に利用者が限られているという話が出ていましたが、広く展開するのによいアイデアがありましたらお願いいたします。

(委員) 地域学習の拠点についてコメントしました。博物館の活動については、よくされていると評価しています。中長期に関係しないかも知れませんが、吹田郷土史研究会で活動しています。他の様々な組織と共通する悩みですが年々会員数が減っています。様々な行事を催しますが参加者は減っています。行事でターゲットを絞った視野からのテーマを設定してはどうでしょうか。

(議長) 評価に関して、事務局から中長期の方が幅広く提案出来ているという話もあったので、と思いながら女性企画の話が出ましたので、そこら辺の展望も含めて、今議論にのぼらなかったところで中長期での吹田市立博物館の目玉とか売りをお話頂いて、この審議を終わらせて頂きます。

(副館長) 地域の博物館ですので、地域のことを広く取り上げることになると思います。スタートラインはそういうところは意識していませんでしたが、20年程やってきて一番今よく言われるのが、市民参画と言われていました。ニーズが多様化して、一つのことだけを取組むと、他のニーズの方から見放されてしまうことを考えた場合に、関係があまりない展示を前後して実施せざるを得ない所があります。かつては、市民からの意見は聞かずにオーソドックスな展示ばかりやって、一部の方しか来られない。という批判もいただきましたが、市民参画を取り入れた結果、違う客層が入りました。しかしその結果、従来オーソドックスな展示に来られた方が離れてしまったこともあります。両者に視野を向け、展示を充実させ、イベントに頼ることなく展

示室に多くの方が入って頂く内容の展示にもう一度取り戻していくことが大事であり、最大目標にしてやっていきたいと思っています。

(副館長) これからの進め方の確認ですが、評価報告書を各々ご採点頂いてお戻し頂いた結果を整理して、議長に一任して頂くことでよろしいでしょうか。次の中長期計画についても、ご意見がありましたら博物館に送って頂いて、結果を反映させたものを27年度の第1回協議会で最終確認をしたいと思いますので、こちらの方もよろしくをお願いします。

(議長) これで第2回協議会を終了させていただきます。